

No.

2023 年度 保健体育科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	保健	単位数	1	週時間数	1	年次・コース・組	1年次
使用教材	新高等 保健体育 大修館書店						
目 標	○個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解することで、現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に、的確な思考・判断に基づいて適切な意思決定を行い、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどが実践出来るようになる為の基礎としての資質や能力を育成する。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの身につけた技能を個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに活用し、発展できる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に表現することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。
	ステップ2 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの技能を身につけることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を目指すことができる。
	ステップ1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活について関心を持つことができる。
評価方法	ワークシートの記入内容、定期テスト等	授業内での観察、ワークシートの記入内容、定期テスト等	授業内での観察、ワークシートの記入内容

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

- ・1年次は、現代社会と健康・安全な社会生活の分野について理解を深める。
- ・授業内でのワークシートを記入させる。
- ・応急手当では、実習を行い、より実践的な活動を行うことで方法や手順を理解できるようにする。
- ・定期試験を通して、保健の知識及び技能を確実なものにする。
- ・ICTや黒板を使用し、基本的な知識を身に付けさせるとともに、グループワークなどを取り入れ、生徒同士で交流できる環境を作る。

担当者より

- ・現代社会と健康及び安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を 通して健康の考え方を深めること。
- ・健康課題を解決する学習活動を重視して、思考力、判断力、表現力等を育成していくとともに、「保健」で身に付けた知識及び技能を生かすことができるように健康に関する関心や意欲を高める。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	現代社会と健康	2	(1) 現代社会と健康 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を見つけることが出来るようする。 ア現代社会と健康の理解を深めること。 (ア) 健康の考え方 (イ) 現代の感染症とその予防 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復	
5		3	国民の健康課題や健康の考え方と成り立ちについて理解を深め、一人一人が健康に関して深い認識を持ち、自らの健康を適切に管理し改善していくことが重要であることを理解できるようにする。 ヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に理解を深めるとともに、その解決に向けて思考・判断・表現ができるようにする。	
6		3	生活習慣病などの予防と回復 がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などは、生活習慣でリスクを軽減できることを理解し、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活が必要であることを理解できるようにする。	
7		2	がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、原因も様々であることを理解し、回復について情報を調べグループで共有できるようにする。グループ活動を通しがんについての理解を深めることができるようにする。	
8		1		
9		2		
前期期末考査で試験を実施する				
10	現代社会と健康	4	(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になることを理解できるようにする。薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、その対策には個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。 喫煙の学習については、ブレインストーミングを行い、関わりの中でたばこの対策について話し合いができるようにする。 飲酒の学習については、アルコールパッチテストを用いて自分の体質を知り、アルコールについての理解を深めることが出来るようにする。また、アルコールハラスメントについても取り上げ、人生で1度は触れるであろうアルコールについての正しい知識を身につける。	
11		3	薬物乱用についてはICTを有効活用し、ビデオを上映したり、ケーススタディの学習を通して薬物についての正しい知識を身につけ、絶対に手を出さないようにする。	
12		3	(オ)精神疾患の予防と回復 精神の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを理解できるようにする。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。 イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現できるようにする。 現代社会の健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートに記述したりして筋道を立てて説明できるようにする。	
1	安全な社会生活	2	(2)安全な社会生活 安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 (ア)安全な健康づくり 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であることや交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境整備に関わること、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることが理解できるようにする。 (イ)応急手当 日常で起こる障害や、熱中症などの疾病について基本的な応急手当の方法や手順があることを実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。心肺蘇生法については外部講師を呼び、実習をとして理解しAEDなどを用いても心肺蘇生法ができるようにする。	
2		2	イ 安全な社会生活について 安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避方法を考え、それらを表現することが出来るようにする。 安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。	
3		1	年度末考査で試験を実施する	